

事業所名		アオハル		公表日		2025 年 2月 22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動内容に合わせて使用する部屋を決めたり、テーブルなどの配置を変えたりしている。	部屋ごとに、時間によって使用目的を決めてスペースの確保を行う。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		利用者の活動に応じて、職員の部屋の配置を変えている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		玄関からバリアフリー化されている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8			利用者に伝わり易くするため、掲示物を貼る場所を決めて、必要最低限に留める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		気持ちが落ち着かない場合や体調がすぐれない場合などに、個室を使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		定期的にミーティングを実施し、支援や活動の改善点を話し合っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			年1回のアンケートにより意向を把握している。次年度内で対応しきれないこともあったので、引き続き業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		ミーティングの際に、職員が意見を共有する機会を設けている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8		現在は、保護者と職員の評価が中心となっている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		義務付けられた研修以外にも、内部研修の実施や、積極的に外部研修を受講する機会を設けている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		職員の意見を基に支援プログラムの作成を行った。今年度中に公表する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		子どもと保護者について、気になる出来事は日々記録している。加えて要望書や聞き取りを行っており、それらの情報からニーズ、課題を明確にし、計画作成している。	子ども、保護者、職員が見た様子以外での情報の獲得(学校、相談支援事業所など)を行う。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援会議にて計画内容が子どもにとって最適な内容となっているか検討している。	検討するにあたり、職員からの意見が少ない。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		計画内容は支援会議を開催し、共有を図っている。	計画に沿った支援の実施を行えるよう、日々の記録や情報共有を徹底する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		WISCなどのツールをお持ちいただき、支援に活用している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		ガイドラインに則って、適切に支援内容を設定している。	地域支援の、地域ボランティアの機会を現在より増やしていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員全体で立案会議を行い、活動の目的や役割などを確認し、プログラムを決定している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		季節に応じた活動や、利用者の意向を聞き取り活動に取り入れるなどして、月間のプログラムを検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		利用者の状況に合わせて、計画を作成している。支援においても、本人の意思を尊重して、集団活動に参加できない利用者には個別での活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		活動前にミーティングを実施し、支援の目的から役割分担を確認した上で、支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	支援終了後に反省点や課題、支援中の利用者の様子などを話し合い、共有している。	勤務時間の都合で全員で振り返りを行えないこともあるので、記録などを用いて情報の共有を行わなければならない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		個別にケア記録を残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		概ね6ヶ月に一度の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		利用者の意向や意思を確認しながら、支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		活動内容を伝えた上で、活動を行うかどうかの決定は利用者の意思を尊重している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達支援管理責任者を中心とし、他職員も出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		保護者の同意を得て、学校への訪問や、事業所にお招きするなどして、学校関係者とケース会議を実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		アプリでの情報共有や、必要に応じて直接電話にて連絡を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			保護者の同意を得て、児童発達支援事業所等と情報共有する機会を設けていくことが必要。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8			対象の利用者がいなかったため。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		ほっぷさんをお招きし、職員研修を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		うたのこのの合同イベントを実施している。	土曜日に一度、近隣の児童館へ行って活動を行った。今後もそのような機会を設けることを検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8			日時や参加方法を把握できていなかった。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時のお話しや連絡帳を活用して、利用者の日々の状況の情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			外部講師を招いての研修や、専門職によるペアレント・トレーニングなどの実施を検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に行ってるが、それ以外でも必要に応じて説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		要望書をご記入いただいた上で、口頭でも利用者の意思を確認する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		保護者と面談の場を設け、個別支援計画を示しながら説明を行い、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		保護者と年2回の面談を行う他、ご相談等がある場合、適宜、面談の場を設けている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			保護者が参加できるイベントを3回行ったが、より多くの方に参加していただけるよう、開催時期や内容、告知方法を検討する必要がある。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情受付担当者・苦情解決責任者を置き、契約時に説明をしている。ご相談やご要望があった場合は、全職員に迅速に情報を共有し、解決に向けて対応をしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		年4回の会報やインスタグラムで、活動や支援の内容を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報には施錠できる部屋に保管している。ミーティングで、個人情報の取扱いについて、職員間で確認を行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		イラストや写真、意思表示カード等を用いて、利用者それぞれに応じた対応ができるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		地域の方からニュースポーツを指導していただいている。ニュースポーツのイベントを開催し、講師としてお招きしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルの読み合わせを行い、計画に沿って訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		避難所までのルート確認を利用者とともにやっている。保護者に対しても、引き渡し訓練のご協力をしていただいている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時に書面にて確認を行っている。その後も、面談時に、状況に変化がないか確認をしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	2		お菓子作りの活動などの際に、保護者から対応を伺っているが、医師の指示書は無いので、必要に応じてご提出いただく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		年間スケジュールを作成し、研修や訓練などを実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		取り組み内容について、送迎時や連絡帳にて周知を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		報告書を作成し、職員全体で再発防止に向けた事例検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		外部講師を招いて研修を開催している。また、チェックリストを用いて自己点検をする機会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		身体拘束適正化検討委員会を開き、やむを得ず身体拘束を行う場合の3要件を確認し、どのような状況が当てはまるか共有した。		